

(3-2) 鳥取県・台中市友好交流協定締結記念昼食会（台中市）

〔出席者〕＜台中市関係者＞台湾日本関係協会 陳訓養 総領事回部弁事、台中市政府 張光瑤 副市長、陳盛山 観光旅遊局長、高文生 石岡区長、台中市温泉観光協会 羅進州 理事長、裕毛屋企業股份有限公司 謝明達 執行総経理、台中市后里区農会、ほか多数。

＜鳥取県関係者＞鳥取県 平井伸治 知事、門脇誠司 観光交流局長、鳥取県議会 藤縄喜和議員、内田博長議員、島谷龍司議員、浜田一哉 議員、北栄町 手嶋俊樹 副町長、鳥取県日台親善協会 山根英明 理事、全国農業協同組合連合会鳥取県本部 尾崎博章 本部長、ほか多数。

鳥取県・台中市友好交流協定締結式典に先立ち、鳥取県・台中市の今日に至る友好交流の発展に寄与されてこられた台湾側関係者に対する感謝の意を伝えるため、鳥取県知事の主催による記念昼食会が催され、本訪問団も鳥取県側の一員として出席させていただいた。主な懇談内容は次のとおりである。

【主な懇談内容】

- ・ 鳥取県と台中市との間で友好交流協定が締結されることは誠に嬉しい。関係者の皆様の今日までの御尽力に心からの敬意を表する。
- ・ 鳥取と台中との交流は、鳥取の梨穂木を台中の梨の樹に接ぎ木することから始まった。今後の交流については、その由来となった農業はもちろんのこと、観光交流、青少年交流、スポーツ交流、教育交流へと裾野を広げていきたい。
- ・ 今回は鳥取と台中との直通チャーター便が実現したが、近い将来は、鳥取と台中との間に定期航空便が就航できるよう、機運を高めていきたい。



来賓代表として挨拶をする藤縄喜和団長（中央）

(3-3) 鳥取県・台中市友好交流協定締結式典（台中市）

〔出席者〕＜台中市側＞台中市政府 林佳龍 市長、陳盛山 観光旅遊局長、呂曜志 経済発展局長、王慶堂 スポーツ局長、卓冠廷 新聞局長、高文生 石岡区長、陳嘉榮 大肚区長、ほか台中市関係者多数。外交部中部弁事処 宋子正 処長、台湾日本関係協会 陳訓養 総領事回部弁事、台湾日本関係協会 洪英傑 専門委員、台中市温泉観光協会 羅進州 理事長、裕毛屋企業股份有限公司 謝明達 執行総経理、ほか台湾官民関係者多数。

＜鳥取県側＞鳥取県 平井伸治 知事、門脇誠司 観光交流局長、鳥取県議会 藤縄

喜和 議員、内田博長 議員、島谷龍司 議員、浜田一哉 議員、鳥取県北栄町 手嶋俊樹 副町長、北栄町議会 飯田正征 議長、鳥取県日台親善協会 山根英明 理事、全国農業協同組合連合会鳥取県本部 尾崎博章 本部長、ほか鳥取県日台親善協会、全国農業協同組合連合会鳥取県本部及び鳥取県農協柿部長協議会関係者多数。

鳥取県議会議員訪問団も鳥取県代表の一員として、台中市庁舎で行われた鳥取県・台中市友好交流協定締結式典に出席し、平井伸治知事及び林佳龍市長による協定書への調印に立会した。席上、台北市側の主な発言は次のとおりである。

【台北市 林佳龍 市長の発言要旨】

- ・ 台中市は、こうして鳥取県と友好交流協定を締結することができ、大変光栄である。
- ・ また、鳥取県においては、翌日から開幕する台中フローラ世界博覧会に「自然とグルメの鳥取県」をテーマに、国際室内花コンテスト部門に出展していただき感謝を申し上げます。また、台中宣言へも署名していただき、博覧会に美しい光彩を放つところとなった。
- ・ この度の友好交流協定の締結は、一方で過去20年余にわたる努力の成果であり、同時に、これからも両地域が提携していくことができる証になってくれるものと期待している。
- ・ 台中と鳥取との交流は、約20年前に梨の穂木を輸入することがきっかけとなった。農業の交流から始まり、徐々に文化、教育、スポーツ、そして観光といった分野まで拡大することができた。その間、石岡区と三朝町、大肚区と北栄町との間の地域間交流も広がっていった。このように地域と地域が深く打ち解けていく交流が実現していることは、とても素晴らしい成果である。
- ・ また、台中市と鳥取県との間には温泉の交流もあり、昨年には観光交流協定が結ばれ、今年の新たな友好交流協定へと発展した。
- ・ この度、鳥取県からこのような大規模訪問団がチャーター便に乗り、訪台されたことは、大変喜ばしい出来事である。鳥取県が台湾との定期直行便の就航を強く希望されていることは、十分に承知している。交通は、地域間交流にとって大変大切な要素である。台中市としては、少なくとも定期チャーター便を鳥取県との間に就航させることができればと考えており、実現に向け努力していきたい。
- ・ 台中市民だけでなく、すべての台湾国民にとっても、鳥取県はとても身近な存在である。なぜならば、鳥取県はまんが王国だからである。名探偵コナンやゲゲゲの鬼太郎のキャラクターには、大変な親しみを覚える。台中市は、新しく漫画の分野でも鳥取県との提携を始めるが、こういった交流も、新しいスタイルとして両地域の友好交流に相応しいと受け止めている。
- ・ 喜ばしいニュースがある。台中市は、国立漫画博物館の誘致に成功した。これは、映画、テレビ、アニメーション産業の発展を願ってのものであり、しっかりと支えていきたいと考えている。また、鳥取市の砂の美術館に学んで、台中市も砂の美術（サンド・アート）にも取り組むこととした。これからは、両地域で砂の交流も拓き、新たな局面を築くことができればと考える。
- ・ 台中の美しい気候、風景、グルメ、そして何よりも、人情味を分かち合っていくことを希望する。



林佳龍 台中市長（最前列中央）、陳訓養 台湾日本關係協會總領事回部弁事（最前列左端）ほか関係者による記念撮影

（3-4）九二一地震教育園區（台中市）

平成11年（1999年）9月21日に台湾中部内陸部を震源として発生し、台湾で20世紀最大となる地震被害をもたらした九二一大地震（台湾大地震）の震災遺構を保存し、防災教育施設として活用されている九二一地震教育園區を視察し、台湾における震災からの復旧復興及び防災教育の状況に関する調査を行った。主な調査内容は次のとおりである。

【主な調査内容】

- ・ 九二一大地震を引き起こした車籠埔断層は、南北延べ105kmもあり、台湾中部を貫通し、断層の沿線に大きな破壊を引き起こした。
- ・ 台中県立光復国民中学（当時。現在の台中市立光復国民中学）では、車籠埔断層が敷地内を通り抜け、校舎とグラウンドを直撃した。3階建て校舎は、1階の教室が潰れて全壊し、塀も完全に倒壊した。グラウンドでも、ポリウレタン系陸上競技用トラックが高低差約2.5mの隆起を起こし、寸断された。光復国民中学の敷地を上空から鳥瞰すると、断層が残した大地の裂け目がはっきりと分かる。
- ・ 九二一地震教育園區は、当該地震で倒壊した光復国民中学の校舎等を発災直後の状態のまま保存する震災遺構として整備したものであり、大自然が引き起こす地震の巨大な力をまざまざと来園者に見せつける。九二一大地震の史実を記録する拠点施設であり、教訓を後世に伝える地震教育施設としても供用されている。当日も、校外研修のため来園したと思われる修学バスが多数駐車されていた。
- ・ 園区内には、車籠埔断層保存館、地震工学教育館、映像館、防災教育館、再建記録館の五つの施設がある。車籠埔断層保存館では、激しく隆起した陸上競技用トラックの遺構や断層の地底断面等が展示され、地震工学教育館では、倒壊した校舎遺構が現状保存されて

いた。映像館では、九二一大地震に関連する写真や映像資料が提供されていたが、これは旧体育館を改築した施設であり、遺構の保存と利活用との両立が図られていた。

- ・ 防災教育館では、「防災魔法学校」と題した漫画キャラクターによる紹介・展示も行われ、若者世代や児童生徒にも親しみやすい場とする工夫が施されていた。
- ・ 発災時の光復国民中学の校舎が違法建築だったというわけではなく、当時の台湾の建築基準には適合していた。九二一大地震を契機として、台湾の建築基準法は従前よりも厳格化された。
- ・ 台湾では、地震を想定した防災訓練は、九二一大地震の発災前は一般的でなかったが、発災後に普及するところとなった。9月21日を国家防災日と定め、台湾全土で一斉に防災訓練を実施している。
- ・ 九二一大地震の発災当時、外国から最初に台湾へ駆けつけた緊急救助隊は、日本の国際消防救助隊である。近年、台湾の防災政策では、日本の先進事例が参考とされている。



保存されている震災遺構（旧光復国民中学）等の施設内視察の様子

（3-5）台中フローラ世界博覧会公式レセプション（台中市）

〔応対者〕 台中市政府 林佳龍 市長

〔出席者〕 鳥取県議会 藤縄喜和 議員、内田博長 議員、島谷龍司 議員、浜田一哉 議員、三朝